

広大なデータの海から真の価値を導き出す

データサイエンスという航海。

統計学は、その舟を確かな方向へ導く“**櫂** (オール)”です。

統計学は、海外の大学においてはデータサイエンスの礎として

認知されている学問である一方、

日本では「統計」を冠する学部はありませんでした。

青山学院大学は、

統計学とデータサイエンスを本格的に学ぶ

新しい教育プログラムとして、統計データサイエンス学環を開設します。

データを読み解くために欠かせない考え方の基礎を統計学から学び、

データサイエンスで問題を解決するための実践的な力を身に付ける。

歴史ある既存5学部との関係がもたらす豊かな知見を生かし、

専門性と実践力を兼ね備えたデータサイエンス人材を育成します。

情報の交差点、BIT VALLEY渋谷・青山に広がる新たな学びの環。


さあここから、社会を拓く航海に出よう。

*連係協力学部：教育人間科学部、経済学部、法学部、経営学部、理工学部

統計という**カ**イ**イ**で、データの海へ

日本初* 統計×データサイエンスの学びを、BIT VALLEY渋谷・青山から

*「統計」と名の付く学部(学環)として日本初



見えない部分に 真実は潜む

スポーツ科学では、部活動などで練習方法を変えたときにパフォーマンスがどれだけ変わったかをデータで検証し、どのようなやり方が「良い練習方法」なのかについて科学的に確かめることができます。

ただし、「この方法で伸びた」という成功例だけを集めると、途中でやめた人や伸びなかった人のデータが抜け落ち、実際は効果の薄い練習方法なのにそれを良いやり方だと捉え、効果を過大評価するなど解釈が偏ることがあります。

統計学では、このような成功例だけの情報に基づく評価・解釈の偏り（**生存者バイアス**）を避けるために、前提を疑いながら、データの集め方や比べ方、欠けている情報の影響を考慮し、より確かな結論へ導きます。

生存者バイアス

データが「生き残った対象」だけに偏ってしまい、脱落・消失した対象が分析から抜け落ちることで、現象の性質や因果関係の推定が歪む偏り。成功例だけから成功要因を推定したり、平均的な成績やリスクを過小評価したりする原因となる。

“止め方”を 最適化する

大雪予報が出ると鉄道や高速道路が計画的に停止されることがありますが、その実施判断は容易ではありません。運行を続ければ、事故や立ち往生による長期寸断のリスクが高まる一方、停止が早すぎると通勤や物流など社会経済活動への影響が大きくなります。安全・復旧速度・社会への影響という複数の要素が絡むトレードオフが生じているのです。

データサイエンスでは、降雪量などからトラブルの起きやすさや規模を統計モデルや機械学習で予測し、それらの影響を統合して「いつ・どの範囲で・どの程度止めるか」といった判断ルール（意思決定）を設計します。

意思決定の設計

予測をもとに「いつ・何をするか」を決めるために、重視する指標と判断基準を先にルール化すること。状況の不確かさがあっても判断がぶれにくく、被害を小さくする、あるいは利益を大きくする行動を選びやすくなる。





異常を 正しく検知する

自転車やエアコンが「いつもと違う音がする」「効きが悪い」など、故障の前ぶれが出ることがあります。早めに気づければ、大きな故障や不便を防げるかもしれません。他にも鉄道や工場の設備でも同じで、異常の兆しを早く見つけるほど被害を小さくできる事例は数多く存在します。

しかし一つひとつの事例での異常はめったに起きないため、正常と異常の違いを学ぶためのデータが集まりにくく、日常のばらつき(ノイズ)との区別も簡単ではありません。さらに季節や環境によって“ふつう”の状態そのものが変わるので、昨日の基準が今日は通用しないこともあります。

データサイエンスでは、データの性質が切り替わるタイミングを捉える「変化点の検知」によって、「通常の変動」と「いつもと違うズレ」を整理し、異常の可能性を早めに見つけます。加えて機械学習も組み合わせ、誤検知を抑えつつ現場で使える異常検知モデルを構築し、安定した運用につなげます。

変化点の検知

確率的に値が変動する時系列データに対し、平均やばらつきなどの特性値が“ふつう”の状態から切り替わったタイミングを見つける方法。一時的な外れ値ではなく、状態の変化を捉えて、異常や劣化の兆しを早めに発見する。

統計学・ データサイエンスの 専門的な学びを

データサイエンスにおいて求められるのは、課題設定からデータ収集・分析・解釈・意思決定までを見通し、データから分かることの限界や不確実性を踏まえるなど複数の観点を統合して考えられる力です。5つの既存学部が協力して教育を展開する本学環の特色を生かし、各分野の専門性を取り入れ、統計学を軸としながら、課題解決力を備えたデータサイエンス人材を育成します。

基礎から実践まで 段階的に学べるカリキュラム

合理的な意思決定を支える上で、統計データに基づく根拠の提示は欠かせません。意思決定に必要な知見をデータから導き出せるようになるために、データ分析の基盤となる統計学を基礎から体系的に学ぶことが重要です。

少人数制の濃密な学び

1学年60名の少人数制で、研究指導が充実。実践的な演習やPBL型授業を通じた学びを重視するとともに、4年次の卒業研究に向けて1年次からゼミ形式での指導を行うなど、少人数ならではの「対話型・実践型」の教育が特長です。

広がる新たな知の環

青山キャンパス初の
「理系」学士課程

5学部の専門性を生かした連携教育

学環の特徴を生かし、研究の方向性や関心に応じて、既存5学部の専門領域も学べる教育プログラムを展開。データサイエンスの幅広い応用領域で求められる多様な知識や技能、思考力を身に付けます。

統計データサイエンス 研究教育センター(予定)で社会とつながる

5つの連携協力学部の研究実績と産官学で行う共同研究等の機会を通じて、データサイエンスの実践的な教育と、人と社会の要請に応える基礎・応用研究を進めます。共同研究でデータサイエンスの現場を体験しつつ、理論的理解を深めます。

BIT VALLEY 渋谷・青山から

本学環は、渋谷の青山キャンパスに設置され、

企業との連携も視野に実践的な教育を展開します。

少人数制で、実データを使った演習や企業との共同研究も行います。

「統計学(Statistics)」は確立された学問分野ですが、

さらに近年、伝統的な「統計学」の枠組みに

計算機科学や機械学習の方法論が加わり、

「データサイエンス」としての体系へ拡充されています。

イェール大学、カーネギーメロン大学、清華大学、シンガポール国立大学などでは、

「Department of Statistics and Data Science(統計データサイエンス)」として、

統計理論とデータサイエンスの学びを中核とした学部学科が設立されています。

しかし、日本国内にはまだ「統計」を冠する学部(学環)は存在しません(2025年11月現在)。

統計データサイエンス学環では、

このような世界的潮流も視野に入れた国際標準の統計教育、

データサイエンス教育をめざします。

Q. 「学環」とは?

A. _____

複数の学部が連携して作る、
学部相当の教育課程のことを「学環」と言います。

データサイエンスの学びは広範な領域に及ぶため、特定の学部だけで教育を完結させることは容易ではありません。そこで、青山学院大学では教育人間科学部、経済学部、法学部、経営学部、理工学部の5学部が協力してデータサイエンス教育を実施する「統計データサイエンス学環」を設置することにしました。

学生は学環に所属することになりますが、他学部と同じようにキャンパスライフを楽しめます。また卒業後には学位が授与されます。不利益になる点は一切ありません。

Q. 「データサイエンス」とは?

A. _____

データサイエンスとは、データを用いて課題を理解し、
解決策をつくり出すとともに、まだ見えていない問題を
発見するための実践的なプロセスです。

データサイエンスは、AIやツールを使いこなすだけではありません。課題を見極め、必要なデータを設計し、分析し、社会に実装できる形へとまとめる、この一連の流れ全体がデータサイエンスです。さらに、データから新しい視点を得ることで、まだ誰も気づいていない“問い”を見いだす役割も担っています。問題を解き、そして問題をつくり出す力こそが、これからのデータサイエンス人材には求められます。本学環ではまず、データを扱うためのプログラミングや論理的な思考を基礎からしっかりと学びます。その上で、データを整理し、特徴をつかみ、予測や分類を行うための基本的な分析手法へと段階的に進みます。さらに、データの中の複雑な構造を捉える高度な手法や、文章・画像・音声といった多様なデータを扱う技術、そしてデータを使った意思決定の考え方を学ぶことで、実社会でデータサイエンスを生かす視点を身に付けます。最終的には、自ら問いを立て、データを集め、分析し、解決策を提示する“研究”という実践を通して、問題解決の全体像を自分の力として獲得します。

Q. 「統計学」とは?

A. _____

統計学とは、データの背後にあるしくみや法則を読み解き、
不確実な世界でよりよい判断を行うための科学です。

世の中の現象にはばらつきや偶然があり、表面だけを見ても本質はつかめません。フローレンス・ナイチンゲールが統計学を「世界のしくみを理解する力」と捉えたように、統計学は、データを正しく集め、構造を見極め、そこから信頼できる結論を導くための考え方と方法を提供する学問であり、社会の問題を理解し、よりよい未来へ行動するための土台となります。本学環ではまず、データを読み解くために欠かせない数学的な考え方や、データを整理・記述するための基本的な視点を丁寧に身に付けます。続いて、複雑なデータの構造を理解したり、現象を定量的にとらえるための応用的な分析手法へと進みます。さらに、不確実さを扱い、物事のしくみを数理モデルとして表現する高度な方法を学ぶことで、データから本質を見抜く力を鍛えていきます。こうした積み重ねを通して学生は、データから社会の課題を正しく理解し、データに基づいて判断・提案できる統計的な考え方を身に付けます。

Q. どのような人材を養成しようとしていますか?

A. _____

データと誠実さで目の前の課題に向き合い、現場に寄り添いながら
改善を導く「サーバント・リーダー」を養成します。

本学環が育てたいのは、高度な分析技術だけを持った人ではありません。どんな現場に立っても、困っている人や課題に静かに寄り添い、データを使ってより良い方向へ導く、その姿勢と行動力を備えた人です。青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」の精神は他者に仕え、世の中をより良い場所にする精神ですが、データサイエンスによる問題の解決や発見にはこの姿勢が必要不可欠です。本学環ではこのサーバント・リーダーシップの精神を土台にデータサイエンス教育を展開することにより、ただデータを振りかざしたり、ただデータ分析をするだけでなく、相手の立場を理解し、本質的な課題を見抜き、改善に向けた道筋をともに探ることができる人材を養成していきます。



その他のFAQについてはこちら▶

青山キャンパス

情報の発信地、渋谷・青山に位置しながら、緑豊かで落ち着いた
雰囲気のあるキャンパスです。周辺には企業や商業施設が数多く
並び、人やモノの動きをリアルタイムで感じられます。



青山キャンパス正門



マクレイ記念館



図書館本館内

マクレイ記念館

約150万冊の蔵書を収蔵可能な図書館本館、情報メディアセンター、AIM Commons、アカデミックライティングセンターまでを一つの建物に集約した総合的な学術情報施設です。ICT環境も整っており、知を広げ、深められる場所として活用されています。

	1年次	2年次	3年次	4年次
	4年間の土台となる数学・プログラミング・統計学・論理的思考の基礎固め	基礎から応用へステップアップするためのデータ分析の基本の習得	専門的なデータ分析手法の理解と領域横断型の応用力の獲得	4年間の知識を統合し、実社会での価値創造を目指す「臨床経験」と「卒業研究」
学環共通科目	基礎数学 解析学I・II 線形代数学I・II 統計学基礎I・II プログラミング基礎I・II 数理・データサイエンス・AI基礎演習I・II 基礎ゼミナールI・II	人工知能概論 AIのビジネス実装 経済学基礎 経営学基礎 グローバル社会の法 基礎ゼミナールIII・IV	離散数学 統計的仮説検定 GISと空間解析基礎 教育認知科学概論 社会認知神経科学概論 基礎ゼミナールIII・IV	統計データサイエンス演習I・II 卒業研究I・II
統計学専門科目		確率論 数理統計学I・II 統計調査I・II 経済統計分析	多変量データ解析I・II リサーチデザインI・II 回帰分析 時系列分析	統計的モデリングI・II ベイズモデリングI・II 統計学の歴史 統計教材開発論 実験計画法 データ分析特論I (探索的データ分析等) データ分析特論II (その他テーマ別分析手法)
データサイエンス専門科目		データ研磨 データ分析環境の構築と技術 データベース概論 機械学習の基礎I・II プログラミング応用I・II	会計データリテラシーI・II AIの法と倫理 生成AIと教育・メディア マーケティングリサーチ	ビジネス会計データ分析I・II サプライチェーンマネジメントI・II GISと空間解析応用 機械学習の応用I・II 非構造化データ分析I・II
外国語科目	English for Academic Foundations English for Structural Accuracy English for Logical Writing English for Academic Interaction	English for Current Affairs English for Global Perspectives English for Critical Thinking English for Presentation Basics	English for Academic Comprehension English for Academic Writing English for Academic Discussion English for Academic Presentation	
青山スタンダード科目 (全学共通)	現代社会の諸問題 歴史と人間 キリスト教概論I	第二外国語 科学技術の視点 自己理解 情報スキルI	インターンシップ アントレプレナーシップ入門・演習	海外語学・文化研修
自由選択科目	青山スタンダード科目／連携協力学部科目／他学部科目			

※青山スタンダード科目は一部抜粋です

Point →

1. 3つの科目群で専門性を高める

「学環共通科目」では、統計学の理論やデータサイエンスに必要な知識・プログラミングスキルを基礎から修得。「統計学専門科目」「データサイエンス専門科目」では各分野の専門性を高めます。体系的に技能を身に付けつつ、関心に沿って学びを深められるカリキュラムです。

2. 選べる学びのゴール

学びの集大成として、3年次の「統計データサイエンス演習I・II」と4年次の「卒業研究I・II」があります。より高度な分析手法を追求する理論研究、問題解決能力を伸ばす実践演習、統計データサイエンス研究教育センター（予定）との共同研究など、人それぞれの学びのゴールがあります。

3. 学部横断の自由なカリキュラム

青山学院大学の教養教育である青山スタンダード科目の他に、自由選択科目として、連携協力学部を含めた他学部の科目も履修可能です。新たな学問分野との出会いで興味関心を広げ、社会をリードするデータサイエンス人材に不可欠な教養を身に付けます。

卒業後の進路 想定される活躍の場

データが集積するあらゆる分野での活躍が期待されます

ビッグデータ活用の重要性が日ごとに高まるなか、さまざまな業界・分野でデータ分析やAI関連の専門人材が求められており、今後さらに活躍の場が広がることが期待されます。

情報・通信分野	コンサルティング・マーケティング分野	金融・証券分野	製造・建設分野	法務・知財分野	教育・公共分野	大学院進学・研究者等
Webサービス・プラットフォーム企業等におけるデータサイエンティストやAI／機械学習エンジニア	消費者行動の分析、顧客企業のデータを活用した戦略提案などに係る価値創造、シンクタンク	金融商品の開発や資産に係るリスク評価、FinTech	新製品の企画開発、品質管理、都市開発計画の立案策定	リーガルリサーチやAI契約審査等のリーガルテック分野、特許価値の評価	AIを用いた新しい教育方法の開発、学力格差や多文化的背景による格差の解消	研究を通じた既存手法の応用・改良、新しいアルゴリズムの提案

多変量データ解析I・II

多くの項目を同時に扱う多次元データを分析し、関係性や特徴を明らかにする手法を学びます。実践的なデータ分析の入口となる科目です。

統計学基礎I・II

データの特徴を整理する記述統計と、データから背景の現象を捉える推測統計の基礎を身に付けます。統計的な考え方を身に付けます。

統計調査I・II

信頼できるデータを得るための調査設計や収集方法を学びます。分析の前提となるデータの質を確保し、問題解決のための調査力を身に付ける科目です。

数理・統計

解析学I・II

一変数・多変数の微分積分を通して現象の変化や関係を理解し、統計学などのデータ分析手法の基礎理論を理解するための数学力を一から養います。

ベイズモデリングI・II

得られた情報に合わせて予測や考えを更新するベイズの手法を学びます。統計学と機械学習の両方で役立つ、実践的で応用範囲の広いモデル構築法です。

プログラミング基礎I・II

Pythonによるプログラミングを基礎から丁寧に学びます。データ処理や分析に欠かせない、論理的に考えて手順を組み立てる力を身に付けます。

AI・機械学習

機械学習の基礎I・II

分類や予測を行う機械学習の基礎手法を学びます。統計学はデータの背景の理解を重視する一方、機械学習では高精度な予測を行うために、データから特徴を学習します。

線形代数学I・II

データを数字の集まりとして捉えるために不可欠なベクトル・行列の考え方を学びます。統計学や機械学習で使われる多くの手法の核心を支える分野を学びます。

基礎ゼミナールI～IV

基礎ゼミナールI～IVは、統計データサイエンスを学ぶための「考え方」と「学び方」を2年間かけて段階的に鍛え、最終的に問題解決を行動規範として身につける必修演習です。授業は講義とグループワークを組み合わせ、実践と振り返りを通して学びを定着させます。まず、「考える」とは何かから始まり、次に言葉を正確に読み取り、意図や前提を捉える読解力を徹底して鍛えます。さらに、根拠のもとについて筋道を立てて考え、伝える論理的思考力を磨きます。最後に批判的思考の訓練と小さな実践を通して、問いを立て、確かめ、説明し、改善へ動く姿勢を確立します。なお、学術的な学びの前提として、引用・著作権・情報倫理なども扱い、根拠のもとづく議論を行うための基本姿勢を整えます。

非構造化データ分析I・II

文章や写真、音声などの複雑なデータを扱う方法を学びます。実社会でのデータ分析に広く使われる重要な分野で、幅広い応用力が養える科目です。

機械学習の応用I・II

画像や文章などを扱う深層学習と、結果の理由を説明するための解釈技術を学びます。機械学習の理解をさらに深めるための発展的な科目です。

サプライチェーンマネジメントI・II

原料の確保から製造・販売までのしくみについて、効率化や最適化の方法を学びます。製造・小売など幅広い業界で生かせる応用分野を扱う科目です。

実践・応用

卒業研究I・II

統計学やデータサイエンスの専門的な学びを生かし、自ら課題を探究します。研究活動を通じて、問題解決にどう貢献できるかを深く理解する科目です。

ビジネス会計データ分析I・II

企業のお金の流れや経営状態をデータから分析する方法を学びます。企業の強みや課題を見つけ、経営判断に役立てるための実践的な知識を養う応用科目です。

教員紹介

荒木 万寿夫 [経済統計学、情報教育]
稲葉 由之 [統計調査論、応用統計学、数理統計学]
高橋 邦丸 [会計学、経営学]
保科 架風 [統計科学、統計的モデリング、データサイエンス、計算機統計学、ベイズモデリング]
米田 英嗣 [教育心理学、認知心理学、教育神経科学]

高橋 朋一 [システム工学、地理情報システム]
矢吹 初 [地方財政学、財政学]
川崎 玉恵 [数理統計学、多変量解析、統計学]
伊藤 敬也 [デジタル情報ネットワーク法、法理学、国際私法(国際民事手続法、国際取引法、国際知的財産法を含む)]
竹田 賢 [サプライチェーン・マネジメント、ロジスティクス、経営工学]

横山 暁 [多変量解析、マーケティング・リサーチ、マーケティング・サイエンス]
大原 剛三 [発見科学、知能情報学、機械学習、人工知能、知識工学、Web情報学]
森田 武史 [知能情報学、人工知能、知識工学、オントロジー工学、セマンティックWeb、知能ソフトウェア工学]
西内 啓 [統計学、機械学習、データサイエンス]

その他、2027年度以降着任予定(機械学習、自然言語処理、AI社会実装論など)

MESSAGE

教員からのメッセージ



新学環開設準備室室長
学長補佐(データサイエンス担当)
経営学部 経営学科 教授

荒木 万寿夫

ビジネス、消費行動、医療、教育、法律や行政など、社会のさまざまな場面で日々膨大なデータが蓄積されています。本学環では、データを正しく読み解く力を基礎に、課題を発見し、予測し、検証し、よりよい施策へと結びつけるデータサイエンスの本質を、統計学を軸とした体系的なカリキュラムで学修します。AIがインフラ化する時代にこそ、人間に求められるのは、問いを立て、確かめ、根拠をもって説明する力です。本学環では、意思決定を支える知識と技術を身につけてほしいと考えています。

本学環は1学年60名と少人数制で、きめ細かな教育を行います。既存5学部が連携する学環というシステムは、関心に応じて応用領域を学べる学際専門性を備えています。また、専属教員としてデータサイエンスに係る実務家も招き、ビジネスとの接続を意識した教育を展開します。学環附置の「統計データサイエンス研究教育センター(仮称)」では、渋谷・青山という立地を活かし、周辺企業等との連携を進め、学生が実社会の課題に触れながら学べる環境を構築します。

クラスや部活動の話し合いの中で、思いつきや先入観ではなく、根拠に基づいて考えることの大切さを感じたことがある。報道で示される表やグラフを見て「本当にそう言えるのか」自分で確かめたい。そうした姿勢は、この分野を学ぶうえで大きな原動力になります。また、データを用いて解決策を探ることは、多くの場合、誰かが抱える課題に向き合うことでもあります。誰かの課題に寄り添い、データの力でよりよい社会づくりに貢献したい——そんな思いをもつ皆さんと、一緒に学べることを楽しみにしています。



実務家教員

統計データサイエンス学環
特任教授 就任予定
株式会社ソウジョウデータ 代表取締役

西内 啓

生成AIの台頭により、データサイエンティストの在り方は激変しています。かつてはプログラミング技術の習得が重視されましたが、現代では目の前の状況を批判的に見つけ、何を分析すべきかを思考する力が不可欠です。本学環の強みは、統計学・コンピュータサイエンスという数理的基礎に加え、連係5学部に広がる人間的、社会的な知見を一体で学べる点にあります。学問分野の壁を超え、実社会の複雑な課題に対して自ら問いを立てる力を養える環境は、他に類を見ないと言えるでしょう。また、ビジネスの最前線に近い渋谷・青山という立地を活かして築かれる、実務の知見に即座に触れられる研究コミュニティも大きな魅力です。

理論と実務が交差するこの場所で、一期生の皆さんが面白い化学反応を起こしてくれることを確信しています。皆さんの挑戦が、新たな時代のスタンダードを作っていくはず。共に未来を切り拓く日を楽しみにしています。



著書「統計学が最強の学問である」ダイヤモンド社

西内氏と荒木室長による対談はこちら▶



2027年度入学者選抜概要

アドミッションポリシー

- 知能・技能 専門分野を学ぶ上で必要な外国語、数学、理科などについて内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有し、特に数学についての基礎学力を有している。
- 思考力・判断力・表現力 高等学校卒業相当のレベルで、所与の課題に対して多面的かつ論理的に考察することができ、自分の認識や疑問を、他者にわかりやすく表現して伝えることができる。
- 意欲・関心・態度 数理・データサイエンス・AIといった専門分野に興味があり、身につけた専門知識や専門スキルを活用して社会に貢献しようとする意欲がある。

2027年度 一般選抜(個別学部日程)

【Web出願登録期間】
1月6日(水)～1月20日(水) 23:00まで
【出願書類提出期限】
1月22日(金) 郵送必着

試験日	合格発表日	募集人員	テスト区分	教科	科目(出題範囲)	試験時間	配点	備考
2月13日 (土)	2月24日 (水)	約30名	大学入学 共通テスト	数学	『数学I, 数学A』	—	100点	満点200点を100点に換算します。
					『数学II, 数学B, 数学C』	—		
			外国語	『英語』(リーディング、リスニング)	—	50点	満点200点を50点に換算します。	
			独自問題	総合問題	データや図表、文章、分析結果などの多様な情報に基づいて、それらを正確に理解し、論理的に分析する能力を総合的に評価します。	90分	150点	—

●統計データサイエンス学環入学後の授業は、「数学III」の履修を前提として行います。

独自問題「総合問題」のサンプル問題はこちら ▶

<https://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/>



2027年度 一般選抜(全学部日程)

【Web出願登録期間】
1月6日(水)～1月18日(月) 23:00まで
【出願書類提出期限】
1月21日(木) 郵送必着

試験日	合格発表日	募集人員	テスト区分	教科	科目	試験時間	配点	備考
2月7日 (日)	2月15日 (月)	約7名	独自問題	外国語	英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、英語コミュニケーションIII、論理・表現I、論理・表現II、論理・表現III	80分	150点	—
				数学	数学I、数学II、数学III、数学A、数学B(数列)、数学C(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)	70分	150点	—
				理科または 数学	「物理(物理基礎・物理)」、「化学(化学基礎・化学)」、「数学I・数学II・数学A(図形の性質、場合の数と確率)・数学B(数列)・数学C(ベクトル)」のうち1科目選択	60分	100点	—

2027年度 大学入学共通テスト利用入学者選抜

【Web出願登録期間】
1月6日(水)～1月15日(金) 23:00まで
【出願書類提出期限】
1月19日(火) 郵送必着

試験日	合格発表日	募集人員	テスト区分	教科	科目	配点	備考
1月16日 (土)	2月18日 (木)	約3名	大学入学 共通テスト	数学	『数学I, 数学A』	200点	—
				『数学II, 数学B, 数学C』			
1月17日 (日)				理科または 情報	『物理』、『化学』、『情報I』のうち1科目選択	100点	左記科目については、高得点の1科目を合否判定に使用します。
			外国語	『英語』(リーディング、リスニング)	100点	満点200点を100点に換算します。	

●統計データサイエンス学環入学後の授業は、「数学III」の履修を前提として行います。

最新情報は本学ウェブサイト(入学者選抜情報ページ)にてご確認ください ▶

<https://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/examination/>



Overview 概要

統計データサイエンス学環 概要

■ 学位	学士(データサイエンス)
■ 入学定員	60名(収容定員240名)
■ 学部等連係課程実施基本組織の基幹教員	20名程度
■ 設置キャンパス	青山キャンパス(東京都渋谷区)

Event イベント情報

オープンキャンパス(2026年)

イベント情報はこちら▶



相模原オープンキャンパス

[開催日]	[対象学部]
7/12(日)	理工学部・社会情報学部・地球社会共生学部・コミュニティ人間科学部

青山オープンキャンパス

[開催日]	[対象学部]
8/2(日)	法学部・国際政治経済学部・総合文化政策学部
8/3(月)	経済学部・経営学部・ 統計データサイエンス学環 (設置届出中)
8/4(火)	文学部・教育人間科学部

オンラインオープンキャンパス「青学オンライン」

[開催日]	[対象学部]
7/21(火)~ 8/31(月)	文学部・教育人間科学部・経済学部・法学部・経営学部・国際政治経済学部・ 総合文化政策学部・ 統計データサイエンス学環 (設置届出中)・ 理工学部・社会情報学部・地球社会共生学部・コミュニティ人間科学部

Access アクセス



交通アクセス

JR山手線・JR埼京線・東急線・京王井の頭線・東京メトロ副都心線 他「渋谷駅」より徒歩約10分
東京メトロ(銀座線・千代田線・半蔵門線)「表参道駅」より徒歩約5分

Statistics and Data Science

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

Special website



統計データサイエンス学環
特設サイト

Official website / SNS 公式ウェブサイト・SNS



青山学院大学
公式ウェブサイト



青山学院大学
公式YouTube



青山学院大学
公式Instagram



青山学院大学
公式X